

徳島県内の農耕地土壌の実態と変化

背景と目的

農作物を栽培する農耕地土壌は、肥料の施用、作物の栽培、気象条件や耕うん等によって徐々に変化しています。

徳島県では、1979年から継続的に土壌調査を実施しており、農耕地土壌の栄養状態などのデータを収集・解析することで、農産物の生産や土づくりに役立てています。

調査の方法

1979年から2008年までの30年間にわたり、約90地点の農耕地土壌を5年に1度のペースで調査しました。

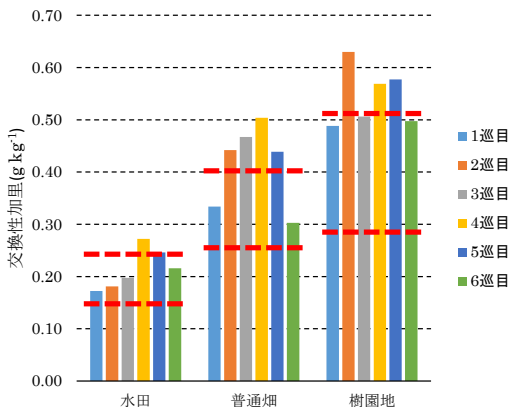
【調査地点数の推移】

調査年次	調査地点数			合計
	水田	普通畑	樹園地	
1巡目 1979年～1983年	42	20	27	89
2巡目 1984年～1988年	42	20	26	88
3巡目 1989年～1993年	42	20	25	87
4巡目 1994年～1998年	42	20	26	88
5巡目 1999年～2003年	42	20	26	88
6巡目 2004年～2008年	38	18	24	80

調査結果

〇カリウム（加里）

土壌中のカリウムの量（交換性加里含量）は、1～4巡目まで増加しましたが、5巡目から減少していました。この傾向が続くとカリウムの不足が心配されます。

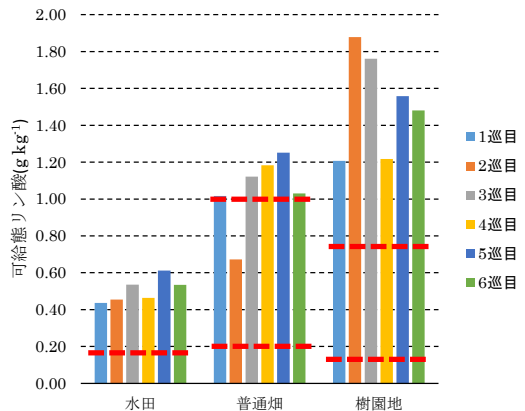


地目毎の土壌中交換性加里含量の推移

図中の赤線は診断基準範囲を示す

〇リン酸

土壌中のリン酸の量（可給態リン酸含量）は、6巡目では減少に転じていますが、依然として診断基準値を上回っており、今後もリン酸を減らす必要があります。



地目毎の土壌中可給態リン酸含量の推移

図中の赤線は診断基準範囲を示す ※水田は下限のみ

生産者のみなさまへ

今後も引き続き、土壌診断に基づき、加里・リン酸を適正な量に近づける肥料管理が重要です。

また、2015年から調査地点を152地点に増やし、調査圃場を再設定した土壌調査を開始しています。

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター
資源環境研究課
電話 088-674-1971